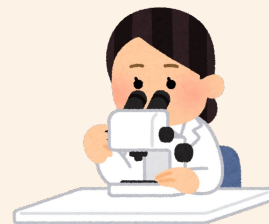


2025年度 SSH特設科目「SSII」

【第19回】 生徒探究発表会ポスター作成

2025年12月9日（火）



専門的課題研究のイメージ

STEP1

研究テーマを決める

STEP2

リサーチクエスチョンを導く

STEP3

仮説を立てる

STEP4

適切な研究方法を選ぶ

中間目標

研究計画書を作成する

STEP5

調査・実験を実施する

STEP6

結果をまとめて考察し、結論を導く

STEP7

研究内容をまとめ、発表する

より高次のRQへ

高1
中間発表

探究
Day

生徒探究
発表会

step1

振り返り

step7

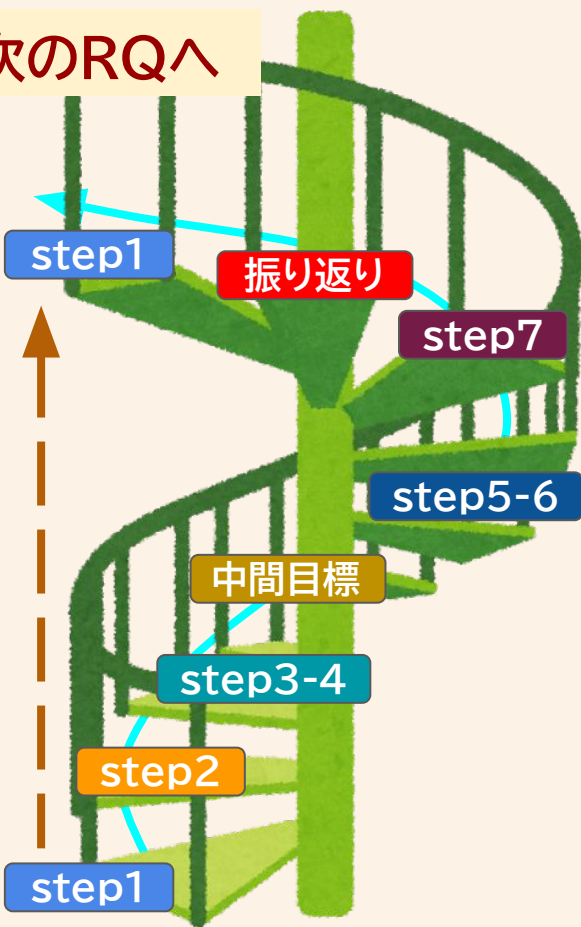
step5-6

中間目標

step3-4

step2

step1



「SS II」の評価

※発表の評価対象には発表資料(ポスター、スライド、研究要綱など)も含まれます。

知識・技能	専門的課題研究計画書兼報告書 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月)
思考力・判断力・表現力	専門的課題研究計画書兼報告書 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月)
主体的に学習する態度	探究ノート(通年) 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月) 学年末の振り返り

今後の予定

11/11	第17回	課題研究活動（探究Day振り返り）※40分授業
11/25	第18回	課題研究活動（探究発表会に向けて）
12/9	第19回	
12/16	第20回	
12/23	第21回	ポスター制作
1/13	第22回	※40分授業
1/14（土）	ポスターデータ提出締切（これ以降の加筆修正は不可）	
2/10	第23回	
2/14（土）	生徒探究発表会	

ポスター作成について

【目的・概要】

一年間の研究成果を他の生徒や卒業生、保護者の方々、先生方などに向けて発表します。探究Dayの成果と課題を踏まえて、さらに調査・考察した内容を加えて発表用ポスターにまとめます。一年間の成果をしっかりと伝えられるように、興味を引き、分かり易い発表を行いましょう。

発表日時： 2月14日(土)

発表形態： 対面でのポスター発表

発表時間：「発表 6 分 + 質疑 6 分」を行います。

ポスターの提出締め切り

SSⅡ授業内での最終確認：1月13日(火)

最終締切：1月24日(土)



ポスター作成方法

- (1) Google ドライブ(シン・全ての教員・生徒が見られる共有ドライブ)にアップされている**ポスターテンプレートの原本をチーム用にコピーしてください。**
ファイル名は「**X00生徒探究発表会スライド**」
(**教室アルファベット+チーム番号 生徒探究発表会スライド**)で統一します。
- (2) ポスターには**必ず、タイトル、学校名、発表者名、要旨、引用文献・参考文献を記載**すること。本論部分は以下の構成をテンプレートとしていますが、**自分の発表に合わせて適宜変えても構いません。**

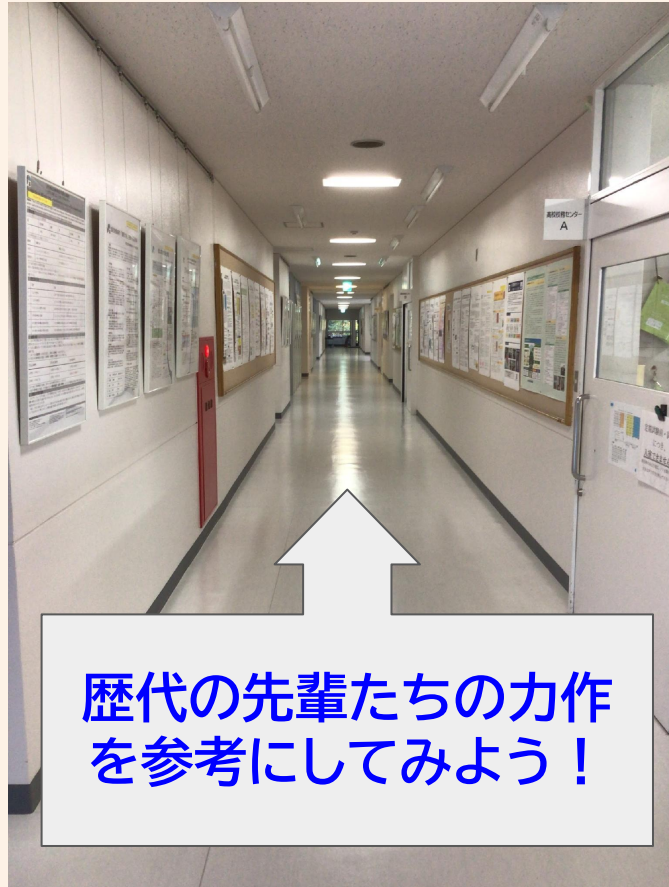
背景	(動機・社会的背景・先行研究など)
目的・意義	(リサーチクエスションの説明)
研究方法	(リサーチクエスションを解明するために取った方法)
結果・考察	(研究方法から得られた結果)
結論	(結果を踏まえて、リサーチクエスションに対応する結論)
今後の展望	(今回の研究によって得られた新たな課題など)

ポスター作成方法

- (3) デザインは、自由に変えて構いません(むしろ推奨)。
背景色を入れたり、文字のフォントを変えてOK。
- (4) ポスターは必ず1枚に収めること。
- (5) 大切なのは、分かりやすさ。特に以下の点に注意しよう。

- ❑ 全体が一つの説明の流れになるようにしよう。
- ❑ 文章だけで説明するのではなく、図や表にまとめられるところは図や表にまとめよう。
- ❑ 特に注目してほしいところは色やフォントを変えて強調しよう。

ポスター作成について（探究ストリート）





SSH 課題研究ポスター

— 「探究ストリート」のご紹介



本校では、生徒一人ひとりが自らの関心や問題意識を出発点に課題研究に取り組んでいます。活動は、テーマ設定から調査・実験・分析、考察に至るまで、一連の研究の流れに沿って進められ、毎年2月に実施される「生徒探究発表会」では、生徒たちがポスターを用いて研究の内容を紹介しています。

ここに掲示されているポスターは、その発表会で実際に使用されたもので、在校生の最新の成果に加え、卒業生が発表した研究の記録も含まれています。

テーマは理系・文系を問わず幅広く、日常生活の疑問から社会課題、高度な理数分野の内容まで多岐にわたります。どのポスターにも、生徒が自ら問いを深め、試行錯誤を重ねながら得た気づきや発見が込められています。

校内に残るポスターは、学びの足跡であり、新たな探究の出発点でもあります。

ぜひ、ここ「探究ストリート」で生徒たちの歩みをご覧ください。

探究ストリート 案内図

化学	物理・数学	生物	人文社会科学	SSHの紹介
				
化学	物理	高大連携・探究	生物	人文社会科学

現在地 

生徒探究発表会の様子



本校の探究活動の詳細や今後の探究発表会の予定に関してはホームページの情報をご覧ください。
最新情報も随時更新中です！



<https://www.ssh.ac.jp/sshsr/>

研究方法まとめ（課題研究メソッド 第3章）

	特徴	メリット	デメリット
文献調査	● すべての研究において、研究テーマの理解や知識を深めるために、必ず必要な要素となる ● 調査対象は、書籍、論文、報告書、新聞、インターネット記事などさまざま ● 引用を正しく行う必要がある	● 盛んに研究・議論されている研究テーマであれば、対象となる資料の種類が豊富にある ● アンケート調査やインタビューを行わなくてもデータを収集できる ● さまざまな資料を調査することで、新たな発見の可能性もある	● 調べ学習に陥りやすい ● 資料が膨大にある場合、その取捨選択を行う必要がある ● 過去の情報を取り扱っているため、現状と異なる記述となっている場合がある ● 著者による偏りを防ぐため、複数の文献を用いる必要がある
アンケート調査	● 用意した質問項目に対して多数の調査対象者から回答を得る手法 ● 同時に多数の対象者への調査が可能	● 一度に多くの人から意見を集められるので、定量的な調査ができる ● 自由記述によって定性的な調査もできる ● 回答の記録がとりやすいので、ふりかえりを行うことができる	● 原則、やり直しがきかない ● アンケートフォームの書き方によって、質問の意図が正しく伝わらずに回答される可能性がある ● 求めている回答に誘導してしまう可能性がある ● サンプルングや結果分析に統計の知識・理解がないと誤った結果を導いてしまう

研究方法まとめ（課題研究メソッド 第3章）

	特徴	メリット	デメリット
インタビュー調査	- 調査対象者へ面接・対話を行い、会話の中から必要な情報を得る手法 - 主に少人数の対象者への調査が可能	- インタビュー中に新たな発見があり、質問項目を変えたい場合、臨機応変に対応できることもある - 質問の仕方によって、調査対象者の意見をさらに引き出すことができる	- 原則、やり直しがきかない - 求めている回答に誘導する可能性がある（アンケート調査でも、アンケートフォームの作成を誤ると生じる） - 記録をしっかりとらなければ分析が難しくなる - 聞きたいことをまとめて、適切な質問をする必要がある
参与観察・ 現地調査	- 問題や関心を抱いた組織やグループに一員として参加し観察する手法（例；インターンシップなど） - 実際に調査対象となる地を訪れ、試料収集や観察を行う（地学分野などでは巡検と呼ぶ）	- 組織やグループの外側から認識できなかった側面や実態を把握することができる - 文献のみでは理解が不十分な部分を補うことができる - 偶然の発見がある	- 対象となる団体数（サンプル数）が少なくなってしまうため、調査対象のグループや組織を一般化して語れるかという議論をする必要がある - 主観的な感想だけにならないよう、データを残すには技術が必要（→他の研究方法との組合せ） - 事前に調査地域に危険がないかなど、危機管理が必要

研究方法まとめ（課題研究メソッド 第3章）

	特徴	メリット	デメリット
実験	- 理論や仮説に対して実際にそれと同じ状況・条件を(人為的に)作ることで、データを測定・収集し、検証を行う手法 - 自然科学分野でよく行われる - 人文・社会科学分野でも、ロールプレイなどの実験が行われる	実験方法に間違いがなければ実態を直接測定・観測することができる	- 実験の原理を理解していないと、何を測定しているのか、問題点も含め、わからなくなってしまう - 結果が得られないと、研究自体がまったく進まなくなってしまう可能性がある